

命の値段

召天者記念礼拝

2015/05/03

詩編49編

【指揮者によつて。コラの子の詩。賛歌。】

諸国の民よ、これを聞け

この世に住む者は皆、耳を傾けよ
人の子らはすべて

豊かな人も貧しい人も。

わたしの口は知恵を語り

わたしの心は英知を思う。

わたしは格言に耳を傾け

豎琴を奏でて謎を解く。

災いのふりかかる日

わたしを追う者の悪意に囲まれる
ときにも

どうして恐れることがあるうか

財宝を頼みとし、

富の力を誇る者を。

詩編49編

神に対して、

人は兄弟をも贖いえない。

神に身代金を払うことはできない。

魂を贖う値は高く

とこしえに、払い終えることはない。

人は永遠に生きようか。

墓穴を見ずにすむであろうか。

人が見ることは知恵ある者も死に

無知な者、愚かな者と共に滅び

財宝を他人に遺さねばならないと

いうこと。

自分の名を付けた地所を持つていても

その土の底だけが彼らのとこしえ

の家 代々に、彼らが住まう所。

人間は栄華のうちにとどまらぬことはできない。
屠られる獣に等しい。

これが自分の力に頼る者の道
自分の口の言葉に満足する者の行く末。

陰府に置かれた羊の群れ
死が彼らを飼う。
朝になれば正しい人がその上を踏んで行き
誇り高かったその姿を陰府がむしばむ。

しかし、神はわたしの魂を贖い
陰府の手から取り上げてくださる

人に富が増し、その家に名誉が加わるときも

あなたは恐れることはない。

死ぬときは、何ひとつ携えて行くことができず

名誉が彼の後を追って墓に下るわけでもない。

命のある間に、その魂が祝福され幸福を人がたたえても

彼は父祖の列に帰り

永遠に光を見ることはない。

人間は栄華のうちに悟りを得ることはない。屠られる獣に等しい。

詩編49編

いやなことを言われたり、
つらい目にあうようなことが
あっても
わたしは恐がらない
彼らは結局、金の力だけが
頼りなのだから

災いのふりかかる日
わたしを追う者の悪意に囲まれる
ときにも

どうして恐れることがあろうか
財宝を頼みとし、
富の力を誇る者を。

私たちの命は 創造主である
神の手に握られている。
「**命の値段**」は高価すぎて、
誰にも払えない。
自分の家族や兄弟だって
生き返らせることはできない
永遠に払い続けても
むりである。

神に対して、
人は兄弟をも贖いえない。
神に身代金を払うことはできない。
魂を贖う値は高く
とこしえに、払い終えることはない。

永遠に生きる人はいない。賢い人も愚かな人も同じように死ぬ。築いた財産は誰かの手に渡る。たとえ広大な土地を持っていても、最後はその土地のどこかに埋められるだけである。

人は永遠に生きようか。

墓穴を見ずにすむであろうか。

人が見ることは知恵ある者も死に無知な者、愚かな者と共に滅び財宝を他人に遺さねばならないという事。

自分の名を付けた地所を持っていても

その土の底だけが彼らのところしえの家 代々に、彼らが住まう所。

人間は栄華のうちにとどまらな
はできない。
屠られる獣に等しい。

これが自分の力に頼る者の道
自分の口の言葉に満足する者の行
く末。

どんなに
人間も動物もいずれ
死ぬと言うこと
において同じである。

自分の力で生きてい
ると思っている人
自分の考えが正しい
と思っている人
みんな最後は同じ

みんな土の下にうめられて、「死」に支配される
生きている人がその上で暮らし、立派だった人生も忘れられる

でも、神様は私の魂を買い戻し、死の国から神の国に連れて行って下さる

陰府に置かれた羊の群れ

死が彼らを飼う。

朝になれば正しい人がその上を踏んで行き

誇り高かったその姿を陰府がむしばむ。

しかし、神はわたしの魂を贖い

陰府の手から取り上げてくださる

みんな土の下にうめられて、「死」に支配される
生きている人がその上で暮らし、立派だった人生も忘れられる

でも、神様は私の魂を買い戻し、死の国から神の国に連れて行って下さる

神の子イエス・キリストが十字架にかかって死に、私の「命の値段」を神様にはらって下さった

しかし、神はわたしの魂を贖い陰府の手から取り上げてくださる

人に富が増し、その家に名誉が
加わるときも

あなたは恐れることはない。

死ぬときは、何ひとつ携えて行く
ことができず

名誉が彼の後を追って墓に下るわ
けでもない。

人が金持ちになり、
立派になっても
うらやましがする必要
はない
どうせ死ぬ時は何も
持って行けないし、
死の国で立派になる
わけではない。

祝福され、幸福な人生を送ったとしても結局は先祖の一人になり、永遠に輝き続けることはできない。

どんなに
人間も動物もいずれ死ぬと言うことにおいて同じである。

命のある間に、その魂が祝福され幸福を人がたたえなくても彼は父祖の列に帰り永遠に光を見ることはない。

人間は栄華のうちには悟りを得ることはない。屠られる獣に等しい。

詩編49編〈堀川試訳〉

あんたらあ、よう聞きんさいよ
金持ちも、貧乏人も。

わしの言うことを聞いとつたら、
損はないでえ。

ええことを教えただげるけえ。

悪口言われても、いやな目におうても
わしやあ、びくともせんで

あいつら、結局金だけが頼りなん
じゃけえのう。

なんぼ金があつても、

人の命は買えんのんじゃけえ。

神さんにどうやつて金払うんじゃあ
なんぼ払うたら足りるん

いつまで払うても、払い切れるきされる
わきあなかろうが

永遠に生きられるもんはおりやせん。

みんな最後は墓に入るんじや。

なんぼ賢うても、バカなもんと同じように死ぬんじや。

ようけえ財産作つても、最後は誰かにやらにあいけん。

広い土地をもつとつても、結局自分のもんになるのは土ん中だけじやろうがあ。

ええかついづできるんも今のうちじや。

死ぬ時は人も獣もおんなじなんじやけえ。

自分の力だけに頼つとつたら

自分の言うところのことが正しいと思う
とつたら

最後どうなるか知つときんさい。

死んだもんはみんな土に埋められ
て、誰も見向きもしゃあせん。

生きとるもんがその上を踏んでいく
んじや。

ほいじやが、神さんはわしの命を買
い戻してくれる

(イエス様が払うて下さつたんじや)
神さんはわしを死者の国からの
神さん国に連れてつてくれる。

知り合いが金持ちになつて、有名なつたけえゆうてあわてることあないでえ。

死ぬ時はなんも持つていけんし、有名な死人になるわけでもない。みんながうらやましがるほど幸せなつても

やがてはごく先祖さんの一人になるいつまでも輝くわけじゃない。

立派になつたらおしまいじゃ

何にも分からんようになるけえのう死ぬ時は人も獣もおんなじなんじゃけえ。

諸国の民よ、これを聞け
この世に住む者は皆、耳を傾けよ
人の子らはすべて 豊かな人も貧しい人も。
わたしの口は知恵を語り
わたしの心は英知を思う。
わたしは格言に耳を傾け
堅琴を奏でて謎を解く。

災いのふりかかる日
わたしを追う者の悪意に囲まれるときにも
どうして恐れることがあろうか
財宝を頼みとし、富の力を誇る者を。

神に対して、人は兄弟をも贖いえない。
神に身代金を払うことはできない。
魂を贖う値は高く
とこしえに、払い終えることはない。

人は永遠に生きようか。
墓穴を見ずにすむであろうか。
人を見ることは知恵ある者も死に無知な者、
愚かな者と共に滅び
財宝を他人に遺さねばならないということ。
自分の名を付けた地所を持つていても
その土の底だけが彼らのとこしえの家
代々に、彼らが住まう所。

人間は栄華のうちにとどまることはできない。
屠られる獣に等しい。
これが自分の力に頼る者の道
自分の口の言葉に満足する者の行く末。
陰府に置かれた羊の群れ 死が彼らを飼う。
朝になれば正しい人がその上を踏んで行き
誇り高かったその姿を陰府がむしばむ。

しかし、神はわたしの魂を贖い
陰府の手から取り上げてくださる

人に富が増し、その家に名誉が加わるときも
あなたは恐れることはない。
死ぬときは、何ひとつ携えて行くことができず
名誉が彼の後を追って墓に下るわけでもない。
命のある間に、その魂が祝福され幸福を人がた
たえても
彼は父祖の列に帰り
永遠に光を見ることはない。

人間は栄華のうちに悟りを得ることはない。
屠られる獣に等しい。

あんたらあ、よう聞きんさいよ
金持ちも、貧乏人も。
わしの言うことを聞いとつたら、
損はないでえ。
ええことを教えたいけるけえ。

悪口言われても、いやな目におうても
わしやあ、びくともせんで
あいつら、結局金だけが頼りなんじゃけえのう。

なんぼ金があつても、
人の命は買えんのんじゃけえ。
神さんにどうやって金払うんじゃあ。
なんぼ払うたら足りるん。
いつまで払うても、
払い切れるきれるわきあなかるうが。

永遠に生きられるもんはおりやせん。
みんな最後は墓に入るんじゃ。
なんぼ賢うても、
バカなもんと同じように死ぬんじゃ。
ようけえ財産作つても、
最後は誰かにやらにあいけん。
広い土地をもつとつても、結局自分のもんになる
のは土ん中だけじゃろうがあ。

ええかつこうできるんも今のうちじゃ。
死ぬ時は人も獣もおんなじなんじゃけえ。
自分の力だけに頼つとつたら
自分の言うとることが正しい思うとつたら
最後どうなるか知つときんさい。
死んだもんはみんな土に埋められて、
誰も見向きもしやあせん。
生きとるもんがその上を踏んでいくんじゃ。

ほいじゃが、
神さんはわしの命を買い戻してくれる
(イエス様が払うて下さったんじゃ)
神さんはわしを死者の国からの
神さん国に連れてつてくれる。

知り合いが金持ちになつて、
有名なつたけえゆうてあわてるこたあないでえ。
死ぬ時はなんも持つていけんし、
有名な死人になるわけでもない。
みんながうらやましがるほど幸せなつても
やがてはご先祖さんの一人になる
いつまでも輝くわけじゃない。

立派になつたらおしまいじゃ
何にも分からんようになるけえのう
死ぬ時は人も獣もおんなじなんじゃけえ。